

2日目

これから「アート化」に取り組む人のためのプログラム

9:40～10:00

受付

10:00～10:10

オリエンテーション

10:10～10:50 各論1 「創造的なアートスペースをつくる～表現をいかす環境づくり」

地域と密着した就労の機会を提供する就労継続支援B型事業所 YELLOW。アートによって障がいのある人たちの個性をいかし、社会につなげるための支援と環境づくりについて考えます。



日垣 雄一さん (株式会社YELLOW)

1973年生まれ、大阪府出身。音楽家の夢を断念したのち、ハローワークで見た「年間休日120日」の言葉に惹かれて無認可作業所の扉を叩く。その後10年以上の時を経て2008年に株式会社YELLOWを設立。現在、就労継続支援B型のYELLOWのほか、就労系のカイツカ★ベース(大阪・貝塚市)とFLITAIR(関西空港内)をばちばち運営。

株式会社YELLOW (大阪府・泉佐野市)

株式会社YELLOWは、「アートと就労をつなぎ、障がい者による就労の新しいカタチをつくりたい」というおもいが原動力となり誕生しました。アートと就労支援の2極歩行で前進していくにつれ、就労支援のニーズと重要性を激しく感じるようになり、100%仕事メインのバリバリツッパリ就労施設「カイツカ★ベース」、関西空港島では初めてとなる障がい者就労施設「FLITAIR」を開設しています。

11:00～11:40 各論2 「可能性を引き出す～障がいのある人・支援者の成長」

障がいのある人の可能性を引き出し活躍の場をつくるには、当事者の成長とともに、支援者の成長も欠かせません。アート活動を通じた障がいのある人の成長と支援者の役割と育成、そこから派生する環境の変化を考えます。



坂部 認さん (NPO法人多夢多夢舎中山工房スタッフ)

1989年生まれ、仙台市在住。宮城教育大学卒。「大学を出たら大道芸で世界を回ろう」と思っていたが、失敗。2013年、多夢多夢舎のスタッフになる。メンバーが「毎日マイペースに楽しく過ごせること」「魅力を生かして世の中に飛び出せること」を大切に、企画・ディレクションを担当。物忘れと白目と方向音痴で、しばしばメンバーからツッコミがはいる。

NPO法人多夢多夢舎中山工房 (宮城県・仙台市)

多夢多夢舎のメンバーの持つ魅力は、絵や音楽、パフォーマンスなどさまざまな形になって世の中に明るく飛び出します。自由に「まる」(dot)を描くデザインブランド[tam tam dot]もそのひとつです。お昼寝をしたり、ご飯を楽しみにしたり、メンバーたちは自由に、マイペースに過ごしています。彼らがめいっぱい生きられる場になりたい。だれもが気持ちよく生きられる社会を作りたい。それが、多夢多夢舎の想いです。

12:00～13:00

休憩

13:00～13:40 各論3 「福祉も協働の時代へ～埼玉県における活動」

埼玉県では障がい者の自立や社会参加の促進、多様性を認め合う社会の実現などを図るための手段としての「障がい者アート」振興策が話され、2009年より「埼玉県障害者アートフェスティバル」が開催されています。工房集からはじまった、埼玉県における障がい者アートの振興と協働について考えます。



宮本 恵美さん (社会福祉法人みぬま福祉会工房集管理者)

1991年社会福祉法人みぬま福祉会川口太陽の家入職。従来の授産活動に合わない人がいた事をきっかけに「表現活動を仕事に」きり変える。2002年地域に開かれた施設づくりをコンセプトにしたギャラリーを併せ持つアトリエ「工房集」の立ち上げに関わる。埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会のメンバー。

社会福祉法人みぬま福祉会工房集 (埼玉県・川口市)

埼玉県川口市にある障がい者施設であり、社会福祉法人みぬま福祉会のメンバーの表現活動を社会につなげるプロジェクトです。「そこを利用する仲間だけの施設としてではなく、新しい社会・歴史的価値観を創るためにいろんな人が集まっている、そんな外に開かれた場所にしていこう」という想いをこめて、「集(しゅう)」と名づけました。表現活動を通じて、障がいの有無に関係なく、人と人を豊かにつないでい

13:50～14:30 各論4 「福祉を超える～Good Job! プロジェクト」

今、アート・デザイン・ビジネスの分野をこえた協働が求められています。障がいのある人のアートの獨創性、企業の技術力をデザインでつなぐことで生まれる新しい商品、サービス、地域興隆の可能性を考えます。



小林 大祐さん (一般財団法人たんぽぽの家 Good Job! プロジェクト事務局)

障がいのある人との協働による創造的なしごとを発見・発信する「Good Job! アワード/Good Job!展」事務局では、誰もが自分の生き方・はたらき方を選択することができる社会を目指す。アート×デザインを追究しながら、IoT(Internet of Things)やデジタルファブリケーションなど、テクノロジーによる新しいしごとやはたらき方を模索中。

Good Job! プロジェクト

障がいのある人とともに社会のはたらき方をデザインする取り組みです。2016年9月に障がいのある人と新しいしごとを生み出す「Good Job! Center KASHIBA」をオープンし実験的で実践的な活動をしながら、「Good Job! アワード/Good Job!展」を通じて、一人ひとりの可能性に向きあうしごと、はたらきやすい環境、はたらきがいが生まれる仕組みや社会のあり方を発信しています。

14:30～15:30

質疑応答 / ディスカッション

愛媛県内には、障がいのある人とともに活動するアトリエは複数存在する一方、それを束ねる中間支援組織が不足しています。創作活動にはネットワーキングの視点は重要であり、また、こうした活動をマネジメントする人材も必要とされています。そこでセミナー1日目は、活動をはじめた団体がどのように地域・大学・企業・行政と協働しているのか、具体的な事例をもとに将来像を描く内容とします。さらに、愛媛県内で注目される作家や団体によるトークセッションも開催します。セミナー2日目は、創作活動を活発にするための各論、地域でネットワークをつくるための各論、新しい表現活動の可能性を開くための各論、および関係者とのディスカッションとします。

1日目

オープニングトーク(基調講演とトークセッション)

2016/10/5|水| 13:30～17:00

12:30～13:30

受付

13:30～13:50

あいさつ、オリエンテーション

13:50～14:50 オープニングトーク「Swingy days」

「アートは問いをなげかけ気づきを促すもの」との考えのもと、社会のさまざまな垣根を越えた活動が活発になってきています。

NPO法人スウィング(京都)は、芸術創作活動「オレたちひょうげん族」、清掃活動「ゴミコロリ」、京都人力交通案内「アナタの行き先、教えます。」など、ユニークな活動を実践しています。今、社会において障がいのある人とともに生きること、地域とともに生きること、またそのための手段としてのアートの役割を考えます。



木ノ戸 昌幸さん (NPO法人スウィング理事長)

1977年生まれ・愛媛県出身。立命館大学文学部日本文学専攻卒。NPO、演劇、祇園のスナック、遺跡発掘等々の活動・職業を経て、「毎日笑えるよ」という友人の勧めで障がいのある人に関わる仕事に就く。2006年にNPO法人スウィングを立ち上げ、「障がい福祉」の枠を超えた創造的な取り組みを通して、社会を変えてゆきたいと願ったり願わなかったり。黄色が好き。でも青も好き。

NPO法人スウィング (京都府・京都市)

Enjoy! Open!! Swing!!! 2006年、NPO法人スウィングは「おんぎゃーっ!」と産声をあげました。スウィングはなんだか狭〜い「障がい福祉」の殻をやぶり、障がいのあるなしを超えた「一市民」として、世の中が今よりもほんのちょっとでも楽しいコトになればいいな…と願う「NPO」として、さまざまな活動を展開・発信しています。

15:00～16:00 トークセッション「愛媛県の障がいのある人によるアートは、今」

愛媛県の障がいのある人による活動から2つの事例を紹介します。活動の促進には、障がいのある当事者・家族だけではなく、地域の多様な参画者が必要です。愛媛の素晴らしい活動の一端を知っていただくとともに、愛媛にこれから必要な視点、仕組みは何かを探るきっかけにしていきたいと思います。

石村 嘉成さん・和徳さん (愛媛県・新居浜市)

アーティスト石村嘉成さんは1994年生まれ、愛媛県新居浜市出身、自閉症による発達障害があります。高校生のときに美術教員の支援を受けながら創作活動をはじめ、2013年に第2回新エコールドバリ浮世・絵展公募部門優秀賞受賞(最年少入選)、2016年に平成28年版環境白書表紙絵コンクール一般の部環境大臣賞を受賞。大好きな昆虫や動物を版画や絵画として表現する石村さんは「作品は僕のことば」と言います。活動を支えてきた父・和徳さんとともに、表現活動をはじめたきっかけ、活動の喜びや葛藤などについてうかがいます。



田村 恵理さん (社会福祉法人金亀会障がい者支援施設スマイルスタッフ/愛媛県・松山市)

スタッフである田村恵理さんは、実は管理栄養士なのですが、ここに暮らしここに通う障がいのある人たちにとって、生きる喜びとなる表現活動の機会を、文字通り手探りでつくり、同僚たちと花開かせてきました。スマイルの施設のなかに展示される、たくさんの方々の作品。やさしく、偉ぶらず、観るものを惹きつける作品群は、各種の全国公募展でもじわじわと入選を重ねています。この場で生まれる豊かな表現はいつい何によって支えられているのでしょうか。スタッフからの報告です。



16:00～17:00 ディスカッション

オープニングトーク、トークセッションを踏まえ、会場参加者も交えてディスカッションを行います。コーディネーター 柴崎由美子(NPO法人エイブル・アート・ジャパン代表理事)